

令和4年度予算主要事業の概要
(事業別説明資料)

河合振興事務所



目 次

天生の森と人のプロジェクトの推進	3
止利仏師伝説の伝承	4
飛騨河合音楽の郷の推進	5

拡充 天生の森と人のプロジェクトの推進

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】		【主な使途】	
13,166	国庫支出金	216	工事請負費	10,000
	県補助金	4,000	委託料	1,455
(前年度予算 9,049)	ふるさと納税	8,950	その他	1,711

2 事業背景・目的

河合町のシンボルである「天生の森」は、貴重な高山植物やギフチョウが生息するなど豊かな自然生態系が維持され、初心者向けの湿原コースから登山者向けの靱糠山まで、幅広いニーズに応えるコースを備えていることから、毎年4～5千人が訪れています。

市は、この貴重な森を守り次世代に残すため、令和元年度に環境デザイン計画を策定し、森の保全学習をはじめ、湿原の陸地化対策やトイレの改善など課題を整理しました。令和2年度には森の中での安全対策として、分かりやすい登山情報のサイン計画の策定に取り組み、令和3年度からの2ヶ年計画で整備を開始しました。

令和4年度は、引き続きサイン整備を進めるほか、湿原の植生調査やトイレ衛生設備の充実等を図るなど、自然の活用と保全とのバランスを考慮した森の運用を行います。

3 事業概要

① 【新規】天生峠駐車場トイレの簡易水洗化 (2,000千円)

現在のトイレは男女共に全て和式(汲み取り式)であることから、登山者ニーズにマッチした簡易水洗方式の洋・和式タイプに改修するほか、男女間の天井間仕切り板を設置します。(男：洋1/和1、女：洋2/和1)

② 【新規】湿原内の環境影響植物の調査 (130千円)

湿原の陸地化が進んでいることから、専門家による環境影響植物の現地調査を行い、令和5年度からの計画的な保全作業を検討します。

③ 【継続】自然環境に配慮したサインの整備 (8,000千円)

令和3年度からの2ヶ年計画により実施しているサイン整備を引き続き実施します。自然界にある檜をベースに匠の技術(繋ぎ手)を用いた分割式を採用し、傷んだ部分のみの取り換えを可能とするとともに、表面に木酢液を塗布することで獣害を避ける工夫を凝らすなど、自然環境に配慮した整備を行います。

④ 【継続】湿原環境保全管理 / 後継者育成ワークショップの実施 (3,036千円)

担当課：河合振興事務所地域振興課 (☎0577-65-2221) 予算書：P. 55

拡充 と り ぶ っ し 止利仏師伝説の伝承

1 事業費（単位：千円）	【財源内訳】		【主な使途】	
2,566	ふるさと納税	2,566	委託費	2,316
			印刷製本費	200
（前年度予算 1,100）			その他	50

2 事業背景・目的

河合町には、法隆寺金堂の釈迦三尊像や飛鳥大仏を作ったと言われる“止利仏師”生誕の地という伝説が残っています。この伝説を後世に伝えるため、河合小学校では伝説をテーマにした民話劇や匠太鼓の継承がなされていますが、市内外において飛驒の匠のルーツとされるこの伝説の認知度が低いのが実情です。

このことから、市では令和2年度に有識者で構成する「天生の森と止利仏師伝説研究委員会」を設置し、天生の森と止利仏師との関係や現代の「飛驒の匠」との関連性について、文献史料調査や現地踏査を実施してきました。

令和4年度は、その調査研究をまとめ、市内の「飛驒の匠」に関連する歴史的建造物や遺跡、現代の飛驒の匠までの優れた木工文化を市民に理解・浸透することを目的に企画展を開催します。

3 事業概要

① 【新規】（仮称）飛驒の匠と止利仏師伝説企画展の開催（2,420千円）

飛驒市文化交流センターをメイン会場に、専門委員会の調査・研究の成果発表の場として、止利仏師伝説が記された史料や「飛驒の匠」に関するパネル展示の他、郷土史研究家による止利仏師の講演会などを実施するとともに、映像コーナーでは金木博幸氏（東京フィル・首席チェロ奏者）による天生の森をイメージしたクラシック演奏をバックに天生の森の動画を上映します。（開催予定：8月下旬～9月上旬）

② 【新規】天生の森と止利仏師伝説ゆかりのツアーの開催（136千円）

伝説の舞台となった天生の森、匠屋敷、飛驒の匠石碑等、ゆかりの地を訪ね悠久の歴史ロマンに想いを馳せる体験ガイドツアーを年3回開催します。

③ 【継続】河合保育園における紙芝居を活用した伝説伝承（10千円）

河合保育園において、地域住民の手作りによる「紙芝居」の読み聞かせを行い、伝説に興味を持ってもらうきっかけを作ることで伝説を次世代に伝えます。

担当課：河合振興事務所地域振興課（☎0577-65-2221） 予算書：P.55

拡充 飛騨河合音楽の郷の推進

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】	【主な使途】
4,710	ふるさと納税 (特定目的) 4,710	負担金 2,590 委託料 2,120
(前年度予算 4,860)		

2 事業背景・目的

河合町では、平成13年より金木博幸氏(東京フィルハーモニー交響楽団首席チェリスト)との御縁の下、優れた新進演奏家の発掘育成と音楽文化の発展・向上に寄与することを目的とした「飛騨河合音楽コンクール」と市民にクラシック音楽の魅力を知ってもらうための「真夏の夜のコンサート」を実施してきました。令和3年度には、コンクール最優秀賞の特典として受賞記念演奏会(ガラコンサート)を開催し、将来プロを目指す若手の育成に力を入れるとともに、20周年を記念するコンサートでは、演奏者を増し曲目を充実した開催が好評を博しました。

令和4年度は、全国の方々からのご寄附による「ふるさと納税」を財源に、コンクール賞金の充実やコンサートも昨年の規模で催すなど、次世代を担う若き音楽家たちとのふれあいを通じて市内の音楽文化への気運醸成を図ります。

3 事業概要

① 【拡充】飛騨河合音楽コンクールの開催(1,950千円)

若手音楽家がコンクールに出場する動機づけに繋げるため、1～3位までの賞金の増額や新たに特別賞を2つ設けるなど受賞の内容を拡充します。併せて審査員を1名増員し、厳正に演奏技術を評価する審査体制をつくり、出場者は高度な技術指導を直接受けることができるなど実施内容に魅力を感じられるものにアップデートして開催します。

② 【継続】飛騨河合音楽コンクール受賞記念演奏会の開催(640千円)

前年度のコンクールの最優秀者に「ガラコンサート」の出演権利を授与し、日々の研鑽を発表する機会を提供することで若手の育成やプロへの夢を支援します。

③ 【継続】真夏の夜のコンサートの開催(2,120千円)

東京フィルに所属される演奏家を中心に若手のコンクール受賞者など総勢15名で構成する豪華なコンサートを開催します。著名なアーティストによる本物の演奏を聴くことができる貴重な機会を提供することで、市内の音楽文化の普及推進を図ります。

- 開催予定：令和4年8月9日(火) 飛騨市文化交流センター 大ホール

担当課：河合振興事務所地域振興課(☎0577-65-2221) 予算書：P.56